

実践事例様式

校種 (学級・教室の種別)	小学校 (知的障がい特別支援学級)	本事例の 教科等名	自立活動
在籍児童 生徒の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生 ・基本的な生活習慣や基礎学力は身についてきた。 ・会話中の言葉遣いが気になり指導をしている。特に場面に応じた相手の気持ちや対応を考えることが苦手で、無視をしたり曖昧な返事をしたりしてしまい、友だちとトラブルになる。 ・WISC-Vの検査では、ワーキングメモリーが特に低く、2つ以上の指示を覚えて行動することが苦手である。そのため、自分に興味のある行動のみを優先的に行ってしまい、後の活動は何をしたらいいか分からなくなってしまう。 	目標 ・ 指導 内容	<p>SST で自分の気持ちや他者の気持ちを考えたり、授業の流れを把握して、活動に取り組んだりすることができる。</p> <p>6.コミュニケーション (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること</p>
指導の経過・ 工夫点・子ど もの変容	<p>1. ソーシャルスキルトレーニングをする上で、苦手意識が出ないように、ゲーム感覚で取り組むことができる活動を行う。(ロイロ使用)</p> <p>活動名：こんな時、なんて言つたらいいのかな？ゲーム</p> <p>工夫：AI (Chat GPT) で当該児童の困っていた場面をイラスト化 (使用カード例参考) し、本人の表現しやすい方法 (役割演劇) で自分の考えを伝える。</p> <p>子どもの変容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ゲーム感覚で、場面設定も学校で起きうる内容だったので意欲的に取り組めた。 ② 自分の考えを文章にするのが苦手な児童だが、演劇で表現することで、自分の考えを直感的に伝えることができた。 ③ ゲームなので、楽しんでいきいきと取り組む姿が見られた。 <p>SST の時間が児童にとって楽しみな時間となっている。</p> <p>指導の経過</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目上の人と話すときバージョンも作成し、先生や外部の人への挨拶の仕方や質問の仕方なども学んでいる。 ・言葉遣いや発言の内容が相手を思いやって伝えられているか交流級の先生とも共有している。 <p>2. 授業の活動内容の流れをホワイトボードに示す。</p> <p>工夫：授業の流れを視覚的に捉えやすくする。</p> <p>細かい指示の時は、活動ごとに指示を区切り端的に伝えている。</p> <p>子どもの変容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 繼続した取組なので、児童がホワイトボードを見て授業に参加できている。 ② 活動毎に端的に指示をだすことで活動がスムーズにできるようになってきた。 <p>※ホームページ掲載に当たり、使用カード例の画像はセンター職員による手描きのイラストに変更しています。</p>	<p>使用カード例 (AI で作成)</p>  	
成果と課題・ 今後の方向	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び感覚で SST を取り入れたことによって意欲が高い状態が続いている。 ・ホワイトボードを見て、次の行動を意識することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの中では相手を考えての表現ができたが、日常生活での改善まで到達できていないので、当事者意識をもたせる工夫をしていく必要がある。 ・担任と情報共有の中で、「友だちからの声かけで動くことが苦手で、活動に参加するのが遅れてしまうことがある。」という課題が新たに見えてきた。 <p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを習慣的に行い、日常に浸透させる。 ・担任が近くについて端的に活動の流れを伝え口頭の指導にも慣れさせる。 		